

秋山弘之主任研究員



中学1年生理科の教科書には、原始的な植物としてシダ植物とともにコケ植物が取り上げられ、コケ植物の代表としてゼニゴケ（銭苔）とスギゴケ（杉蘚）が掲載されています。

今回紹介するジャゴケ（蛇苔）はこのゼニゴケの仲間、同じように平板な植物体をしています。そ

の表面には名前の由来となった蛇の目模様が目立つ点異なります。兵庫県ではゼニゴケよりもジャゴケの方が普通に見られます。このジャゴケはただ1種だけが北半球に広く分布すると長い間考えられてきました。最近の研究によれば、少なくとも世界に6種があることがわかっています。

ひとはく 研究員 だより

ジャゴケ研究、全国の市民参加

そしてアジア大陸の東端である極東に位置する日本には、そのうちの4種が分布しています。大陸の東の縁にそって南北に長くのびる日本列島の形と場所が、



ジャゴケ雄株

植物の進化にとって実は重要なことを示す良い例です。

日本産ジャゴケ類4種のうち最も普通に見られるのはオオジャゴケです。近畿地方や中国地方のジャゴケ類はまず間違いなくこの種類です。植物体表面に光沢があり、指の間で植物体をもみつぶすとさわやかな森の香りがするのが特徴です。

一方、日本海側ではキノコのマツタケとそっくりな香りを持つマツタケジャゴケが現れます。長い冬の間、深い雪に覆われる場所にだ

け見つかるのですが、それは冬期の乾燥に弱くて雪の下で保護される必要があるからようです。残りの2種は香りに特徴がなく、タカオジャゴケは石灰岩洞窟の近くに、ウラベニジャゴケは火山灰に由来する黒い土が発達した場所を中心に見つかります。

日本産ジャゴケ4種の分布の様子が明らかになったのは、北は北海道から南は沖縄本島まで全国に散らばるジャゴケ探検隊メンバーの尽力のおかげです。それぞれの地元から研究用の新鮮な植物をひとはくにたくさん送っていただきました。

このジャゴケ探検隊はジャゴケ4種が日本列島のどこにどのように分布するかを調べるために設立された、コケ植物を愛好するプロ・アマチュアおよそ50人からなるボランティアの調査チームです。これは全国規模の生物の分布を調べるといった、研究者1人ではとても手が回らない大規模調査にはうってつけの市民参加の取り組みでした。